

学年末考查中ですが……

学年末考查のまっただ中！ですが、学年だよりを発行します。内容は以下の通りです。

- ① 考查後～学年末の日程 ② 高校入試期間中の登校と学習課題について

テスト勉強で忙しいかとは思いますが、確認し、間違えないよう行動してください。

考查後の日程について


考查後の日程について、下記の通りお知らせします。高校入試の期間も含めると、かなり変則的な日程が続きます。よく確認してください。

日	曜	行事・時程等	備考
2	月	通常授業（1日）	通常時間割
3	火	5分短縮授業（1日）	通常時間割（一部変更あり）
4	水	卒業式予行（午前放課）	
5	木	卒業式（午前放課）	
6	金	10分短縮授業（3限まで）	特別時間割
9	月	高校入試期間（13日午後まで）	
13	金	成績不振者へ担任から連絡	※ 成績が心配な人は自宅にいること。
16	月	授業日（1日）	スタディーサポート ほか
17	火	授業日（1日）	進路講話、進路説明会 ほか
18	水	球技大会（1日）	
19	木	終業式（午前放課）	
25	水	離任式・教科書販売日	

※ それぞれの日の詳しい時程、時間割は、後日連絡します。

※ 3/9（月）～13（金）までの校舎内の立入りについては、右ページを確認してください。

高校入試期間中の登校について

3/6（金）	3限後 校地内立入制限区域あり	校地内完全立入禁止	
3/9（月）			
3/10（火）			
3/11（水）			
3/12（木）	1日 校地内立入制限区域あり		
3/13（金）	合格発表（14：00予定）まで校地内完全立入禁止		

- ① 部活動で登校する生徒
② 教科担当の先生の指示を受けて、登校する生徒
- 顧問・担当の先生の指示や、校内の掲示をよく確認し、**立入制限区域には絶対に入らないこと。**

高校入試期間中の学習課題について

3/9（月）～3/13（金）までは授業がありません。土日を含めると9連休ということになります。その間に各教科から課題が出されていますので、しっかりと取り組んで、**切日に確実に提出できるようにしてください。「テストが終わってすべて終わり」ではありません。「家に帰るまでが遠足！」であるように「課題をすべて提出するまでが考查！」**です。がんばりましょう。

教科	内容と範囲	提出時期	その他
全般	スタディーチャージ 1冊 （↑冊子は後日配布）	3/16（月） スタサポ終了後	クラスの進路係が回収。 → 担任へ。
国語	『よむナビ現代文』（p.52～p.63） ※ 空欄はすべて埋め、○付けます。	3/16（月） 17：00まで	クラスの国語係が回収。 → 国語科の提出箱へ。
数学	春休みの課題を先取りして進めておくこと	春休み課題の提出時	
英語	C英I 『For Reading』を読んで ① 『Fill-In Notebook』（p.96～p.109） ② 『Workbook』（p.82～p.87） をやり、○つけをする。	3/16（月）	クラスの英語係が回収。 → 教科担当へ。
語	その他、春休みの宿題『Joy Reader』をやってもよい。『フレーズで英単語』レベル4のまとめテストを新学期に実施します。		

その他、自分の進路について、学部、学科研究や職業研究など、今までに配布された進路指導資料を活用し、今しかできないことをどんどん進めましょう！

当たり前ですが、大学に行くには費用がかかります。その費用のことを考えると、一番経済的に「お得」なのが、地元で進学することです。自宅から通うことのできる大学も多いですし、国公立であれば学費も安いのです。なので、「進学するなら地元で。しかも国公立で。」と多くの人が考えています。保護者の方も「大学に行くなら地元の国公立で。」と考えている方が多いでしょう。

ということは当然、「あなたがやりたいことは、みんながやりたいこと。」という進路の基本原則にしたがい、「国公立大は人気が高く、競争も厳しい。」ということになるのですが、今日はその話はしません。

今日したいのは、「地元で大学生であること」と「首都圏で大学生であること」のどちらを選ぶか、という話です。念のため断っておきますが、この選択の権利は、皆さんだけが持っているわけではありません。皆さんと、皆さんの保護者の方が一緒に考えて選択をすべきものです。なぜなら、この選択には「費用の差」がつきまとうからです。一般的な傾向では、自宅から国公立大に通った場合と、一人暮らしで都会の私大に通った場合では、年間約125万円の差があると言われていています。（日本学生支援機構の調査結果より）これだけの負担を強いるわけですから、自分だけでは決断できませんね。

さて、地元で大学に通うことのメリットはなんでしょう？なんといっても一番なのは「コストパフォーマンスの良さ」ですよね。一人暮らしをしなければ、授業料と交通費しかかかりません。これは魅力ですし、国公立大ならばなおさらです。他にも、地域密着型の学問研究ができる、とか、地元就職に有利な面があるかもしれない、とかが挙げられるはずですが。保護者の方にしてみれば、「(子どもが)自分のそばにいて安心」というのも大きなメリットかもしれません。

では、首都圏で学ぶことのメリットはなんでしょう？私はそれを「**圧倒的な量の情報と文化に、簡単にふれることができること**」だと考えています。

書いている私が文系学部出身なので、文系の学部のことしか書けないのが申し訳ないのですが、文系学部の場合、入学後にどうしても「レポート」や「論文」の作成が必要になります。その時に必要なのが「情報の量」です。一例を挙げるとすれば、「本」。何かを専門的に研究する場合、どうしても「実際の本」に触れなければなりません。そして、専門的な研究をする場合、それらの本の多くは、ネットでは手に入らなかったり、古書店ですら簡単には手に入れることができなかつたりします。

そんな時に有用なのは、図書館です。どこでも手に入らない資料は、図書館で探すしかないのです。文系学部の場合、大学で学ぶということは、「図書館を利用して学ぶ」こととだつたりもします。**首都圏はこの図書館が量、質、ともに充実しています。**国内最強(?)の図書館「国立国会図書館」があるのも東京です。

充実しているのは図書館だけではなくありません。古書店、美術館、博物館、その他の展示・学習施設、劇場、音楽ホール、ギャラリー……。ほとんどの「**文化的**」な施設は**首都圏に集中しています**。たとえば、文学部の学生が研究の参考に生の「歌舞伎」を観に行こうと思っても、新潟ではそう簡単には観られません。ですが、首都圏に行けば少しの電車代と少しのチケット代で容易に観られるのです。（これは、新潟と首都圏を比較して新潟の文化が劣っているということではありません。あくまでも量の差の話です。）

もちろん、そのぶん「**他のものに気を取られて、学問がおろそかになる**」という**危険性もある**のですが、とにかく、首都圏で学ぶことの大きなメリットはそこにあるはずですが。

繰り返しますが、ここでは「地元がいい」とか「首都圏がいい」とかということをお願いいたいのではありません。各ご家庭の事情があるので、そこまで立ち入りません。ただ、**どちらがいいか考えて、保護者の方と相談をすることには価値がある**と思うのです。この学年だよりをきっかけにして、そういう話をしてみてはいかがでしょうか？

ちなみに、「じゃあ、首都圏でも費用を抑えられる、首都圏の国公立大にしよう！」と、思った人もいるはずですよ。そんなあなたは、進路の基本原則を思い出してください。そう、「あなたがやりたいことは、**みんながやりたいこと**」。首都圏の国公立大が人気が高く、とてつもなく競争が激しいのは、そんな理由もあるのですよ。